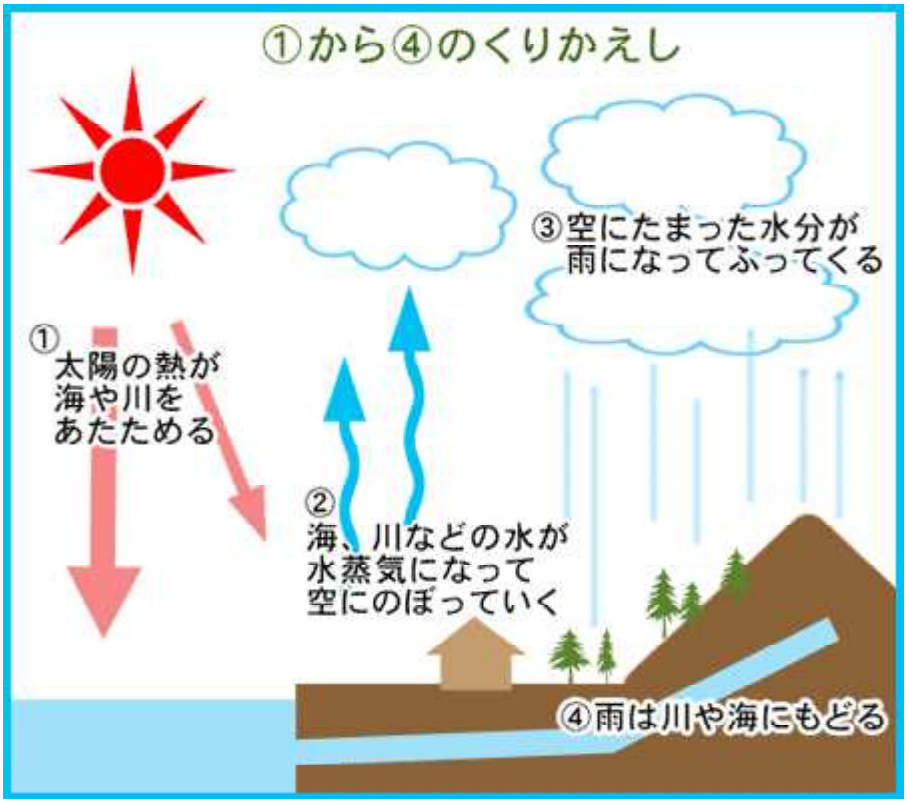
どうして雨がふるのでしょうか。

　空から水がふってくるなんて、考えてみると不思議(ふしぎ)ですね。
　雨はどういうしくみでふってくるのでしょうか。



　雨は、つぎのようなしくみでふってきます。

①太陽の熱が、海や川をあたためます。

②あたためられた海や川や地面(じめん)などの水分は、水蒸気(すいじょうき)になって、空にのぼっていきます。

③空にどんどん水分がたまって重たくなると、雨になって地上にふってきます。

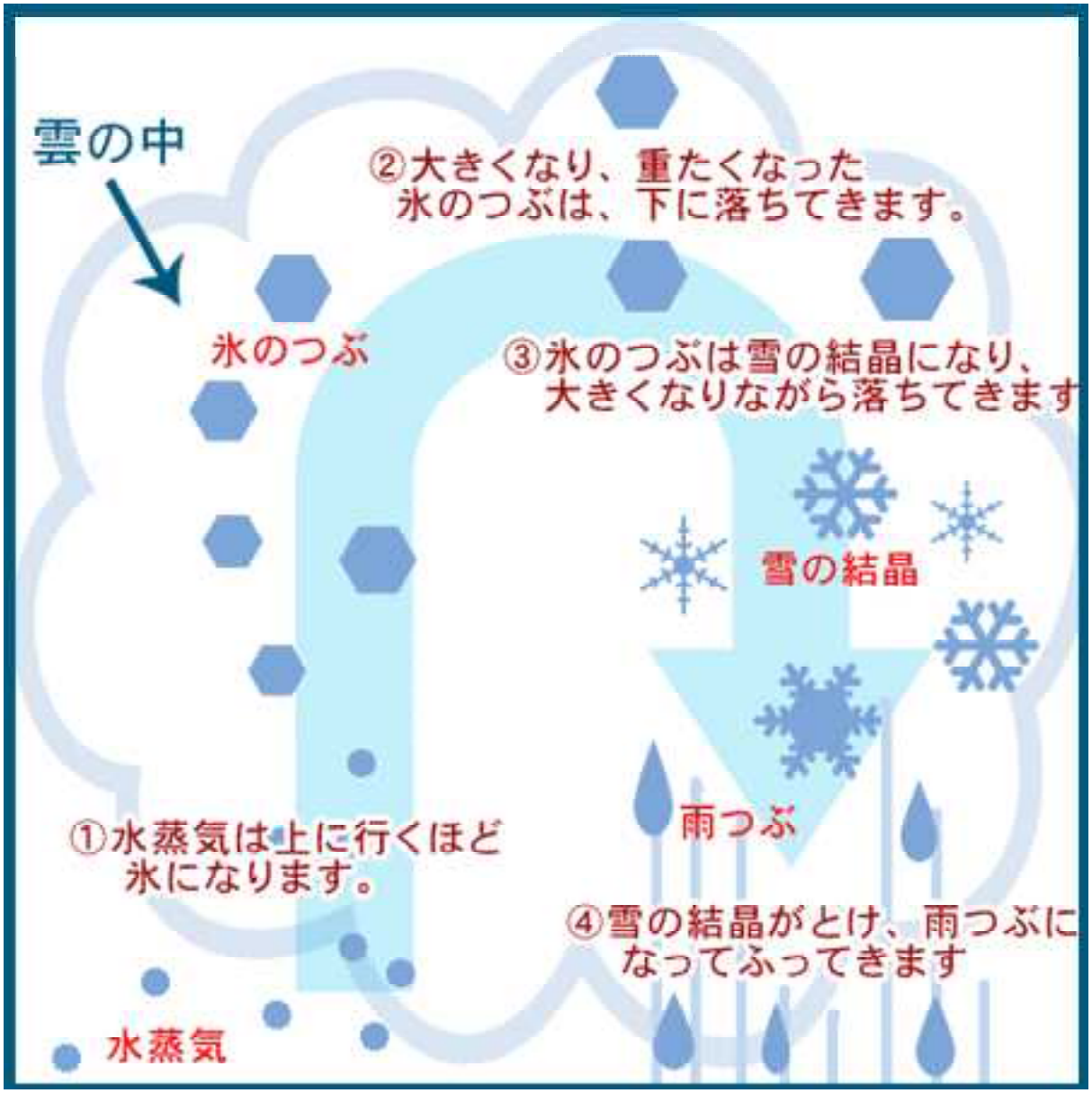
④雨は川は海にふりそそいで、ふたたび海や川になります。

①から④をくりかえすながれのことを「水の循環(じゅんかん)」といいます。

　水蒸気(すいじょうき)になって空にのぼって行った水分は、次の図のようにして、雨つぶになって落ちてきます。

①空の上は気温が低いので、水蒸気(すいじょうき)は氷のつぶになります。

②氷のつぶはどんどん大きくなり、重みで下に落ちてきます。

③落ちてきた氷のつぶに、水のつぶがくっついて、雪の結晶(けっしょう)になって落ちていきます。

④下の方は気温が高くなるので、雪の結晶(けっしょう)がとけて、雨つぶとなり、雨がふります。